

# いまなぜ「視覚会議BASIC」なのか?

あなたの組織に視覚会議BASICが必要なワケ

## 答えがない「やっかいな問題」に直面していませんか

世の中は3種類の問題があります。これまで取り組んできた問題のほとんどは「**単純な問題**」「**複雑な問題**」ではなかったでしょうか。これらは一見すると難しそうでも、誰もが納得する正解が存在したので、時間をかけて解決方法

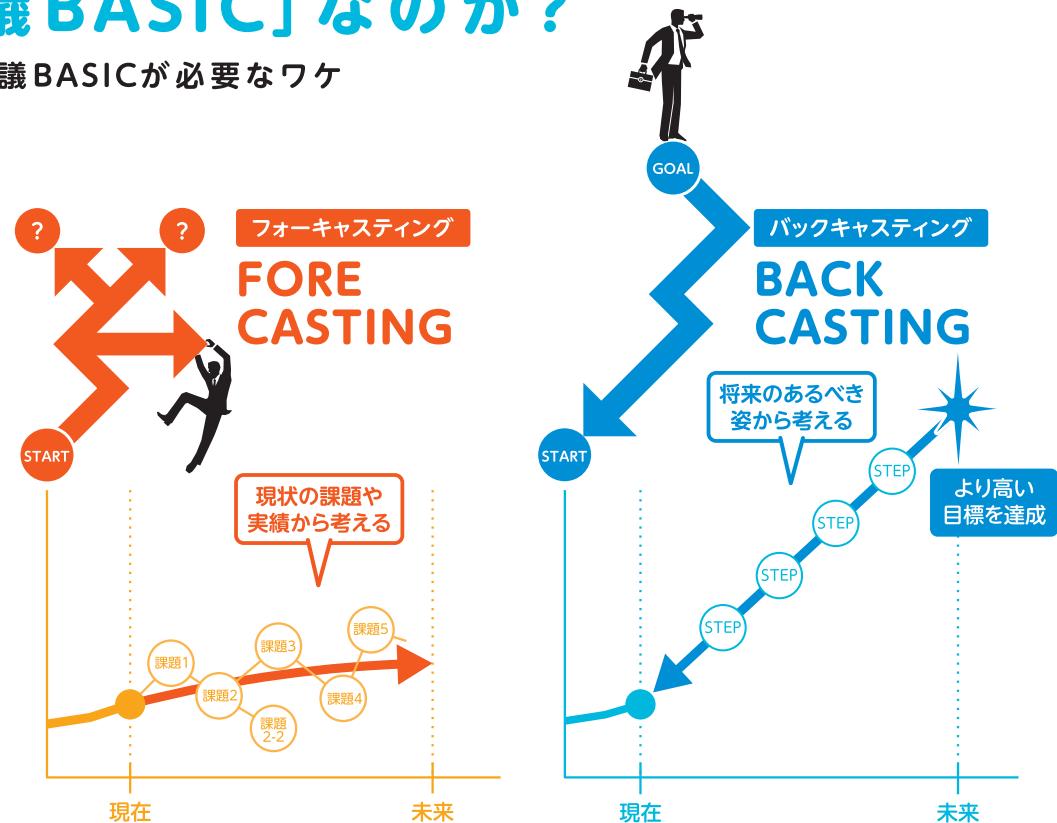
が見いだせました。しかし、「**答えがない時代**」といわれる21世紀に急増しているのが、そもそも正解が存在しない「**やっかいな問題**」です。いまあなたの組織が直面しているのも、この「**やっかいな問題**」ではないでしょうか。

問題の種類と特徴				
問題の種類	アウトプット	ありたい姿・あるべき姿	課題・論点	ソリューション
<b>単純な問題</b> 例)会議の結果を共有したい	○ 正解がある	○ 比較的容易に整理できる	○ 明らかな解決方法があり、マニュアル化できる	
<b>複雑な問題</b> 例)会議の生産性を高めたい	○ 正解がある	○ 複雑でも十分整理できる	△ 時間をかけて正解を見出すことができる	
<b>やっかいな問題</b> 例)変革の時代における会議運営のるべき姿とは?	? そもそも正解が存在しない	? ゼロから考える必要がある	? リーン型で解く必要がある	

## 答えがないからこそ未来を考えることから始めよう

問題解決の手法には、先に課題や論点を定義し、その解決策を実行する**フォーキャスティング**と、あるべき姿を定義し、その実現手段を逆算して考える**バックキャスティング**という、2つのアプローチ方法があります。フォーキャスティングが向くケースもありますが、現代を象徴する「やっかいな問題」はバックキャスティングでなければ解けません。問題の背景が複雑なので、目の前の課題から解こうとすると、誰かが不利益を被ったり、別の問題が起こったり、矛盾やトレードオフが生じます。やっかいな

問題にはそもそも全員が正しいと思う答えが存在しないのです。そこでまずは、**あるべき姿・ありたい姿を定義**します。目指すゴールを合意した上で、課題や論点を洗い出し、それを解決するソリューションを考えていきます。バックキャスティングは初めに理想の姿を考えるため、フォーキャスティングよりも高い目標を達成できる可能性があります。現在の延長線上で物事を考えていても、新しい世界は開けません。一見すると無謀とも思える高い志を掲げるからこそ、イノベーションが起こり得るのです。



## わずか50分間で全員納得の答えを作り出せる

バックキャスティングで最初に行う**「あるべき姿・ありたい姿の定義」**は視覚会議BASICが最も得意とするところです。一般的な会議ではこのような正解がない問い合わせを扱うことが難しく、通常以上に意見が紛糾したり、発言者が偏って納得感が得にくかったり、うまくまとまらないものです。視覚会議BASICは未知のテーマや方針が定まっていない課題、何が問題なのかも定義されていない問題に対して、

論点を明確化しながら、ゴールを作ることができます。しかも、所要時間は**わずか50分間**。**参加者全員で合意形成**するので、次の行動につながることも大きな特徴です。答えのない時代に生じる「やっかいな問題」に対して、バックキャスティングでアプローチするために、メンバーが集まって視覚会議BASICで「あるべき姿」を定義する—これが共創や協業、価値創造の第一歩になるのです。

もっと詳しく知りたい方はこちら ▶ <http://shikaku-kaigi.jp/>